

經濟論叢

第113卷 第1号

島 恭彦教授記念號

献 辞	木 原 正 雄	
現代世界の労働者階級	大 橋 隆 憲	1
所得税制史にかんする一つの覚書	廣 田 司 朗	31
大蔵省預金部改革前後	宮 本 憲 一	48
マルクス経済学と財政論	斎 藤 博	81
インフレーション研究の課題	横 尾 邦 夫	101
「向坂派」国家独占資本主義論の論理構造	坂 井 昭 夫	119
ニューディール期における政府金融機関の活動	青 木 圭 介	139
行政手段と公務労働	池 上 惇	165

島 恭彦 教授 略歴・著作目録

昭和49年1月

京 都 大 学 經 濟 学 會



島 恭彦教授近影

島 恭彦 教授 記念論文集

献 辞

島 恭彦先生は、今年6月5日をもって満63歳の誕生日をお迎えになり、来春4月1日停年退官されることになりました。

先生は、現代の財政思想確立の基盤をつくられた処女作『近世租税思想史』をはじめ、数多くのご労作を發表され、以来学界において主導的役割をはたされてきました。最大のご業績は、『財政学概論』にみられるように、新憲法のもとでの財政学の体系をうちたてられたことであります。このほか、地方財政の研究においても先べんをつけられました。また、理論的研究のみならず、民主的_的地方自治の確立を提唱され、研究の成果をひろく住民のために役立てる活動をもすすめてこられました。

先生のご功績は、これにとどまるものではありません。ご在任中の研究や子弟の指導のみならず、「学園紛争」の過程で、大学問題検討委員会の第3部会長として、大学改革についてもご活躍されたことを、とくにつけくわえなければなりません。

京都大学経済学会は、先生の長年にわたる学恩に感謝し、『経済論叢』の新春1月号を記念号として編集することになりました。先生のご指導をうけられた方々の労作を、ご退官を記念して一冊にまとめ、先生に捧げることができましたことは、わたくしども一同このうえもないよろこびといたすところです。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のためのみならず、ひろく国民のためご活躍くださいますことを心からお祈りいたします。

1973年12月25日

経済学部長 木原正雄